新刊

人國記

卷之下一

人國記卷之下編目

山陰道八國

丹波一　丹後三　但馬四　因幡五
伯耆六　出雲七　石見八　隱岐九

山陽道八國

播磨十　美作十一　備前十二　備中十三
備後十五　安藝十六　周防十七　長門十八

南海道六國

紀伊十九　淡路廿　阿波廿一　讃岐廿二

伊豫 廿四　土佐 廿七

西海道九國 并二島

筑前 廿九　筑後 卅　豊前 卅一　豊後 卅三

肥前 卅五　肥後 卅八　日向 四十　大隅 四十二

薩摩 四十四　壹岐 四十七　對馬 四十七

人國記卷之下

山陰道八國

丹波

當國の風俗ハ人の氣懦弱ふして。面〻各こふして己を自恃し。人の非を訾人の長ある云消れひとへふ。婦人の心根ゐう。石性ハ農業を專とせずして。高粱を掬かゝして。糸の冨有を求。却て勇氣ずくなくして。怠れゐく。昨日の味方も今日ハ敵ゐう。世ゐゐを才一の凡義ゐゐとそ。

按に。尚武ハ四方山こゆて。皆谷間の人家なり。寒雪も。北国ほどハなきれとも。尤烈し。山谷の間の民なれハ。偏屈にせゞかるべきなれとも。古書ハ説ごとく懦弱なる所ハ。代国機州に隣て。紀に近ク。加上邦の風俗を見に倣て。自氣の情出て。木強の風を失へり。婦人の風俗一入取しめなくして。跡未なる所なり。

山鉾館人園
人園巻之下

丹波國圖

東

但馬

丹後

亀山

園部

篠山

福知山

綾部

市原

碇原

田井

佐三本

大江山

岩家

丹後

當國の風俗ハ上下男女ともに万人の間に一人も好人なし。不直ふして氣強。却て勇ましハ寡し。適勇あれハ邪智多し。若又實ある者ハ愚昧なり。用ふ不堪とそ。

按に當国ハ北海をうけて南に山を負ひ入海多して海の温和ふ別れりゝ寒きまあれとも北陸ふ及ふ。

丹後國圖

但馬

當國の風俗ハ丹州よりハ劣り。岩氣多城崎二方の郡ハ。實ありて。たのもしき氣色あり。朝来養父の風ハ。氣色きたなく。盜人おほし。丹州の風の中分にして。若くも惡にも。從ありとそ。

按ふ。當國ハ土地の大底丹後ふひと。但丹後よりも。野鄙なる。四時寒暑。丹後ふ同し。國府ハ濃風あり。

但馬國圖

因幡

當國の風俗ハ。八上智頭邑美の三郡ハ。實ふーして。而も勇ありて紡を不変。高草氣多法味巨濃の数郡ハ。偸ふーして。邪智あり。武士ハ利欲ふ拘。得の所く方に従ふ。凡そ。一國の風俗の変。海と天性自然の理なりとて。

按に。蒙ふ北海をうるとのこと。南ハ山陰。並の国なりも。たちこそりたる国なり。寒さもはなはだし。民俗海濱と山谷とハ俗れの国も変異あるなり

因幡國圖

伯耆

當國の風俗すべて虚實相まじ。貴人に交て己を省て吾心生ぜずといふとも。其人を離ては又勉心に変じやすし。兎角迷閑の化に在て。定り心得ふかし。されば今世下賤の輩ふ。物の拙りて進とも怠やすきを。三る俗といふるゆゑの風より始ると云。知て勤ふ。勤ても怠ハ勇ふ生ずる気とそ。

按ふ。當國の風土も因州より作れども。牧畜多し。民俗本書にしるす。

伯耆國圖

出雲

當國の風俗ハ万度の作業實義ハ勤て支をもち一とすゝ凡なれとも。明國の論義決ハして。其理を不辨。是邪正ともに佛神に祈て。加護をたのゝとする凡なり。謀計ハ罰ハ尚。置ハ慢を蒙。神ハ礼を不受。正直の前にやとるゝを不受。是時の心なりとて

按ず。南宝山貧困を抱て寒風ゆり。

出雲國圖

石見

當國の風俗ハ丹後の国に不異して。偽を飾りて。實なる人稀なり。弱てふぬ風俗なり。智有る者ハ只悪心を巧む。言葉の巧みなるとて。

按に當国ハ西北の海に向て。山を背にたる国なり。気候も劣し。民俗も高に尺ゆ。山谷の秀を愛する風。上下勇猛さと。又銀山の風移りて。淫巧の風有り。

石見國圖

南
木原
原井
荻原
池田
山中

隱岐

當國の風俗ハ柔弱ふして放逸なる。知夫一郡の人
實義ふして。たのゝ有所あり。其餘ハ風にさがふ
業のごとく義無して不物ちびき陷ふ風なり。名云
を陷られども。石州より。なゝ上の風とて。
按に。出雲州を去ること。三十六里。北海中の洲也。
寒雪尤甚し

隱岐國圖

山陽道八國

播磨

當國の風俗ハ。智あるて義理を不忘。親ハ子を誡し。子ハ親を敬。主ハ被友ハ外地をかくいぐて。ぬ人をかゞ出。家とうろぎ。被友も亦力勤を二心なくして。親族を。不知をほるるを。ゆ。也偏ハ盗賊の振ゝ。侍ハ中くゑ。其地風義なりとそ。

按ス。當國ハ南ハ江海あと。長。山と。鬱て。よこの風土なり。寒暑温和ゆて。万ず富有のゆゑ。民

俗な書に邪説のごとくなるべし。風土の邪気をうくるゆへ。憂患に生て。安楽に死の理を知て。其心を神忠するものあるなり。寒ふ古春の武士にも。赤松堂が如き。皆利心より出て。故出の所謂不及是也と云者なるべし。

播磨國圖

東
但馬
因幡
美作
摂津
播磨
明石
加古川
印南
揖保川
夢前
市川
林田
佐用
平福
揖東
揖西
宍粟
千種
安川
神崎
姫路
飾磨
夢野
清水
惣社
大河
野瀬
生野
生野
生野

義作

當國の風俗ハ卑劣ゆへ。欲心深し。譬ハ人の物を借て。夫を不返を却てよろこぶやうのたぐひ片意地ゆへ。人の教訓を聞入ず。邪曲に任て。過を文されども。中にも。化しやすきかたぎもあるハたのもし。石州ハ山陰山陽の分れ目にあたりて。山坂多く。寒国にてそだちかたし。

美作國圖

備前

當國の風俗ハ上下ともに利根を先として。方々をおさなく偏て。言ひのゝ惡しきるゝおほし。別て偏心ひろくして。上べハ上のぬるゝ沙ひて。内心ハ[illegible]ひうさ[illegible]くにさげすむ。傍ゝ[illegible]。主人ハ威を張て下をなやんとす。被官ハ主を欺。内ハ皆私心あれとも表を衒。凡ゝ[illegible]。去れとも都て勢ある人。上を飾り凡ゝ[illegible]ハ。文千年も濁る。まことに善をさゝもて。凡義真あるゝ人さうとそ。

備前國圖

按に。當国八山入原くゝびて。海濱を抱たる国こゝ寒暑も中和とゐ膝国なり

備中

当国の風俗ハ。都て意地はり。上下男女ともに勇乱ありて。義理を励まず意地張にて。されども心ゆくに。理を尚ぶ。但備前境の辺ハ不正はるるの風ありとそ。

按当国及備後とも。備前と一国にて。古ハ吉備国と云へとも。備前ハ。山陽道に属し。意味国おなしと。

備中國圖

備後

當國の風俗ハ生涯実義ふかくして。物を愛するもの多し。されども愚癡なるもの多く。変化不実なるものを年ごとにとる。

梅に。菊岳ハ三郡の内にて。一の名所なり。尤海辺あれども。山々深くして。佳景の地ふかし。実に景海濱ハ臨氣多し。山中ハ美多し。

備後國圖
北
備中
備後
安芸
伯耆
出雲
石見
長尾
三次
浦田
泉村
木屋原
庄原
荒川
矢川
神部
黒川
田井
林田
川尾
吉舎
甲奴
世羅
甲山
高野
尾道
鞆
福山
鞆浦
三原
竹原
忠海
大崎
御調
因島
生口
向島
能島
鯛浦
鯛ノ浦
鯛ノ浦

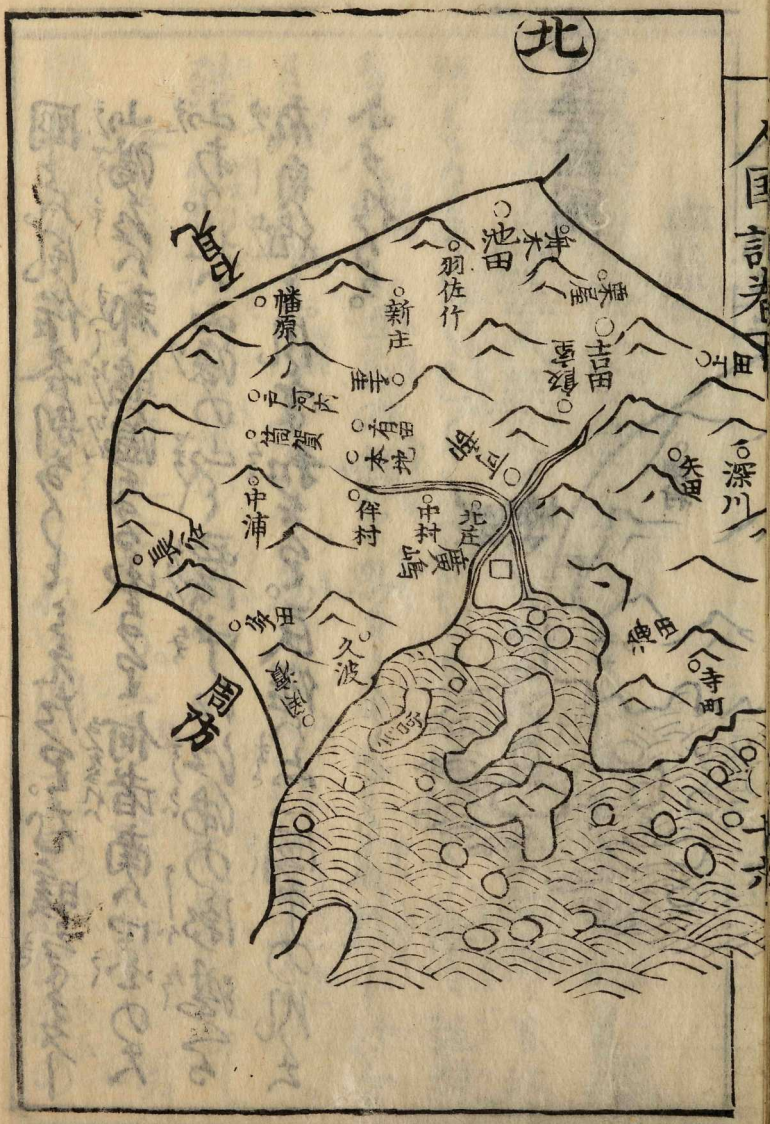
安藝

當國の風俗ハ生來実あるさまにて。氣自然と猛しく。強人ひとて。人を生だて。人の善惡ともに。別しるるもあく。己くゞ一分をもる風なり。依て掖羅なる人おゝし。世界の潮を思ふてもあるを。れしげかきれなれども。麁言ハ実義なり。執れハ義不合。強く。侘伯沼田賀茂の人健かて。二心表裏の風なり。

按ふ。当國ハ尤海辺なれとも。三方山かて。南も山なて。秀峯自ゝ。なれる國なる。是故に垂の

國とし。風俗各別なりとぞいへり。北暖寒多し。山陽道は都暖温なる事なり。何者南は海の大山あり。北は山陰の山々聳。中に江湖の湾流る故。自然と風土和なり。民俗は人一國平の風土ふさはしかるべし。

安芸國圖


北
池田
羽佐竹
新庄
吉田
深川
矢田
幡原
中浦
伴村
中村
北庄
久波
寺町
東
西
南

周防

當國の風俗ハ。健義なるゝ。されども吉敷佐波者諸二郡ハ。義理寡。昨日まて肩を並べ者ゆえも。仕合よをれハ。君と仰ぐ。大鴻欧阿能毛郡の人ハ。西郡よりハ。ゆハまされる。されども情落の方ハ付たる風。好人希ゆえて。要ず色ハ。徒とも恐て氣小なる。思ふるの人なりとて

按に。當國ハ海四面。九山を負ども。深うして。寒暑氣候にひとし。

周防國圖

長門

當國の風俗ハ方の三英掛たるゆゑ人の言葉も下青に上調ゝ多るゆゑ人ハ疾ずるに一思業して。
美の風なり。更ゝ人たのもかして。堂函豊たるを以を勤といへ共。進ず疾けれ共。全く怠惰の業なり。
因茲武士の風俗。若と云難しとそ。

按に。当国ハ北西の海を受たる国ゆへ。むかしも海賊ありとゝへ共。多ハ陰氣を受たる国なり。依て寒風烈〻。雪も亦山陰に切し

長門國圖

南海道六國

紀伊

當國の風俗ハ不健義弟一不して陽氣甚賤く。上ハ下を貪り下ハ上を侮り。法令を不用。就中牟婁日高在田郡ハ我慢多く。言地を強とると思へハ。又弱して。偽り和の奥言不極。譬ハ昨日敵と爭ひ人なり。今日ハ從ひ。又先に是変あれハ。己一分の一揆を企の類あり。此故なり。郷々に名主庄司と号して。一分に主人を立つ。治業の私の時ハ

吹傳るゆゑ。後に此風に慣れて。伊那名草那賀海部郡の人。南郡より。氣柔なり。扨も扨掛たる武士のこゝろ。是も偽りなる心底歟もあり。又無をたるとて。実ふ陸奥の武士はなきれども。猶の原なり。日本一の武士あるまゝ。只利口を面前ふ張り。実義なもあり。両伊両毋石州丈ふ比もれハ武士強。

桜に。尚武ハ大国ゆゑ。海濱なり。尤無野等の原山もなといへども。ゑまハ海辺なり。南方の国なるゆへに。風土暖氣多く。柔和の民

紀伊國圖

北
ゆき
越後
高田
高田口
高田
高田
高田

淡路

當國の風俗ハ。遠島の國ゆへ。人の氣健かにして。
侈華も偽なり。禮言ハ親戚縁者とゆへて其節
めを正し。縱貪婪乞丐の者なりとも。尋常の風
なり。されども。都て怠惰がちにして。事ずくなく。
退屈のこと多し。武士も。實義ハあれども。達人の
面出ぬこと多しとぞ。

按に。南海ハ紀伊阿波の海中の島なり。
四辺皆海なりて。山多し。農夫も漁夫なり。

南方ゆへ。たゞ暖かにして。民俗柔弱のみ。
にて。まもるとまれども。孤独なる故。実義ありとも
えがたし。

淡路國圖

阿波

當國の風俗ハ大底氣健ふして。勢あり。されども。勢あるゆへ。愛過て行き過ぎあるべし。人をたぶらし。強盗をする者のことあるべし。むさ〻化強し。勝浦郡賀茂郡ハ野原波戸馬郡ハ少し心細弱とも。

按に。尚玉海濱東ハ向賀山係し。南海ハ究竟氣多し。東方の秀氣を受る故ハ氣健ふ勢あるべし。

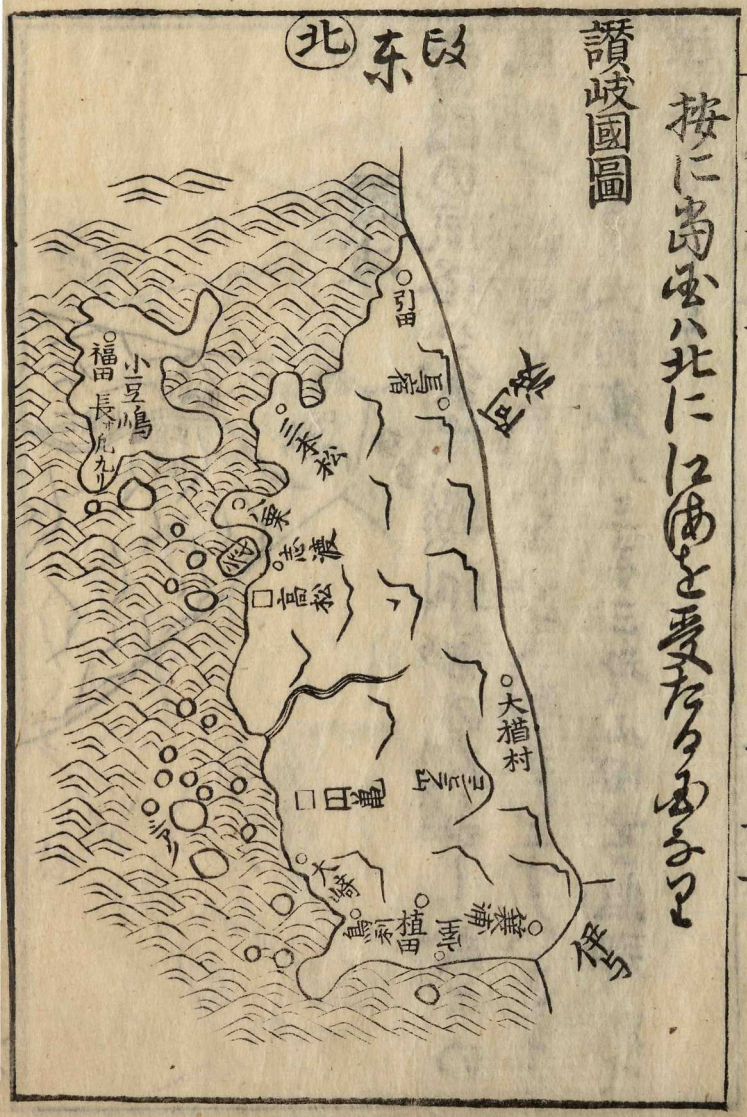
阿波國圖

讃岐

當國の風俗。氣質弱。邪智の人多し。武士の風。別て猛強く。方便を以て。立身をすべきなり。と思ふなり。大内寒川三木三豊山田多数郡。別てひんしなりとぞ。

按に高屋八北に位置を要たるものと

讃岐國圖

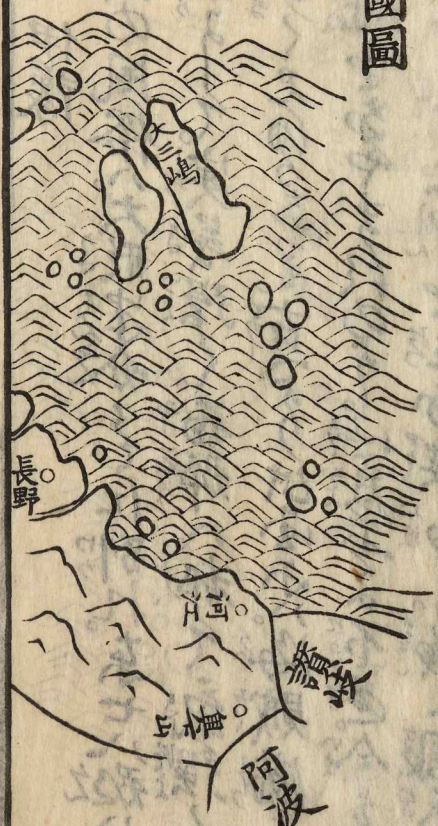


伊豫

當國の風俗。大形半分こゝに別れ。東七八郡は。氣質柔うして。実義強く。西郡は。都て氣強く。都て実はおくびゆるまず。古へより此国は海賊満て住来の舟をあやまんのよし。世及ぶよ不遠。今をなを徒党を立て。一列を立て族多し。後は関東の強盗。此国の海賊同じ業うして。武士の風俗一隅てゞようとゝも。甚だ此体なきは花多き風なる。来の世とても。此風変ずまじきとて

按に。當国大國にして。むかしより。郡に郡義も所をわくるなり。むかしの国の名也。

伊豫國圖



北
長濱
熊州
志津
山口
豊後
豊田
拜志
中村
玉名
宇土
土佐

西
大洲
松葉
八幡濱
吉田
宇和島
秦泊
美玉浦
宇和

福浦

土佐

當國の風俗ハ。極て真あり。氣質すなをなる。土佐長岡吾川の郡。別て此風あり。多く猷る。風の移るものなり。此国の猿するをもつて。氣質を佐つけよき也。但言ゆへ。其語言早俚あるとて。

按に。南海ハ大海にして。石畳の濱たぐきあり。山まさあり。北南海を受ける国なる故温暖あり。

土佐國圖

田辺
熊野
竹貝
久賀
羅川
伊豫

福良
鳴門

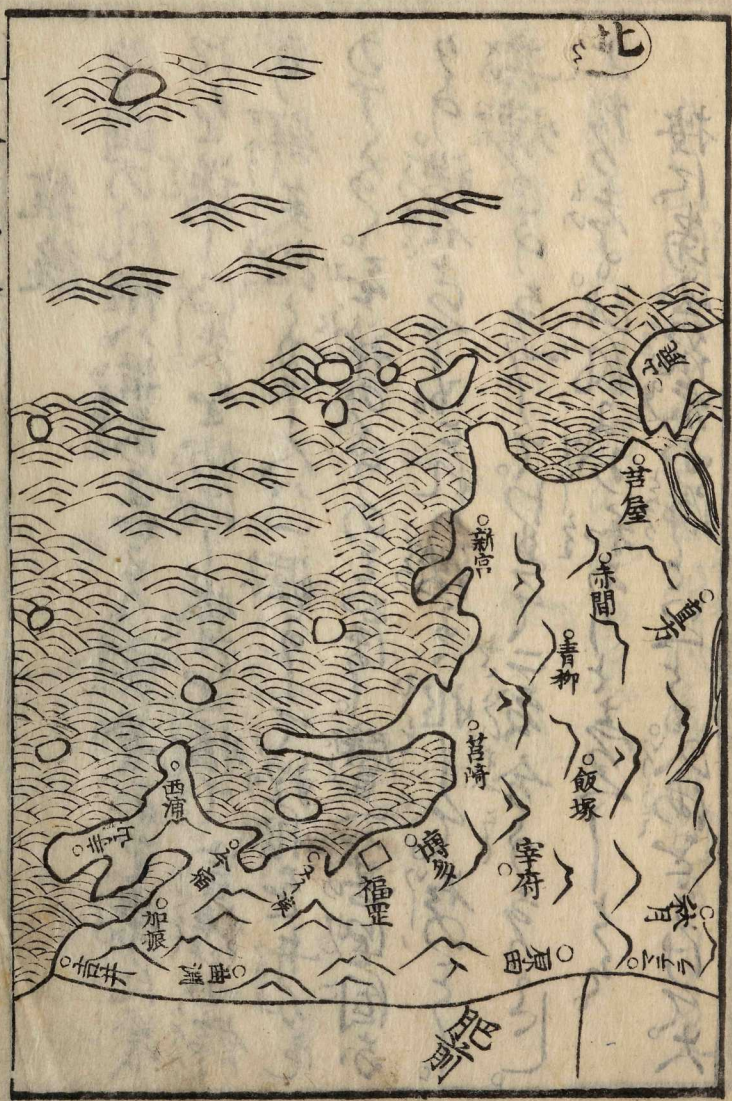
西海道九國 附二嶋

筑前

當國の風俗ハ。大度飾多して。人と各〻の心ガ
ヲ。勇も一度ハ勢れとも。かゞる凡ゆ人絶ふ何ゆ
を成就せど。但ハ列にめぐ〻紀。花奢の國ガ
ヲ。酒色狂好人ぞ。親洋の為てなく。我たゞ
に。ゆゑ人ふちゐ者さゞぶ凡して。基不て光とて。
桜に。尚密一面を美て。山も赤多。風土温
和うして。暖多。古者ハ。だ宰府とて。

水路の要衝の地なりて。是を西都ともいひし。然中博多の津は。異国の船津なりし加。外の湊なりの。風義かるとみえし。人の生る様をはなるるまて。地とさやうなる者なり。

筑前國圖


北
肥前
福岡
博多
筑後
筑前
宰府
飯塚
青柳
赤間
菩屋
新宮
菅崎
西浦
加瀬
井堀
田野
田川
小川

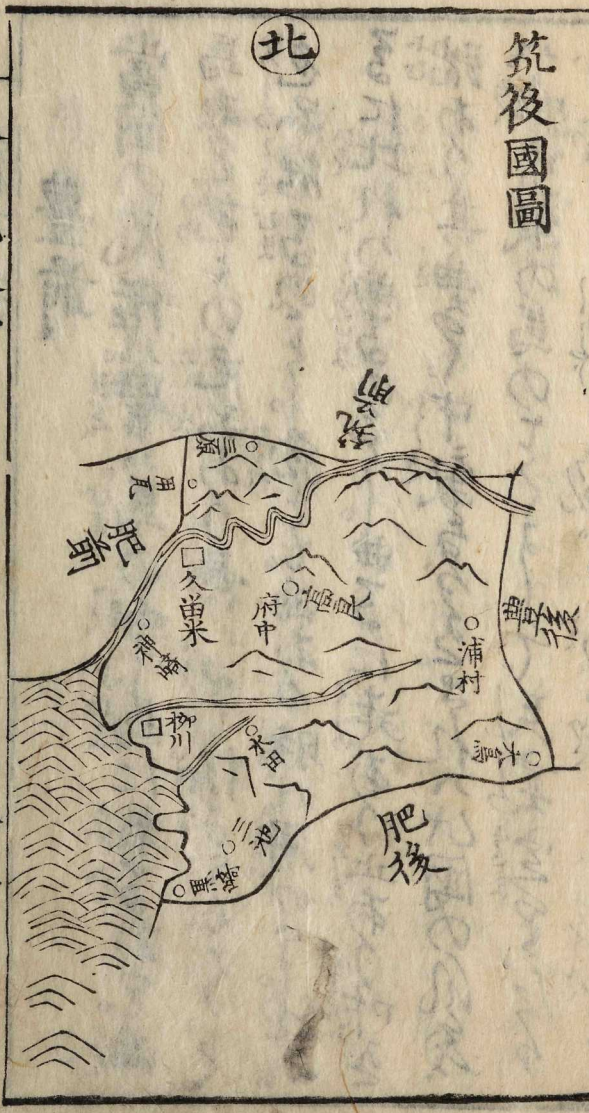
筑後

當國の風俗ハ筑前よりかろし。実義あつ。常に義理を崇ぶる失をはぢ。費を惜で。言語ハ錦なる解美なれども。下人ハ一途なりて理非を弁ずるのすくなく。至神のくすのきなり。譬ハ甚四国かたの。磯石といへども。これハ強ふ非して。石のごとく。其煉るまちまちにして。こゝに二義合するがごとし。上なる者。はなはだ和すと雖ども。

按に。肥後筑前ハ藩といへども。へあとうけて大

ゝと山園たるゆゑ。故風俗も別ちうと見えたり。尤温暖のゆゑ。

筑後國圖

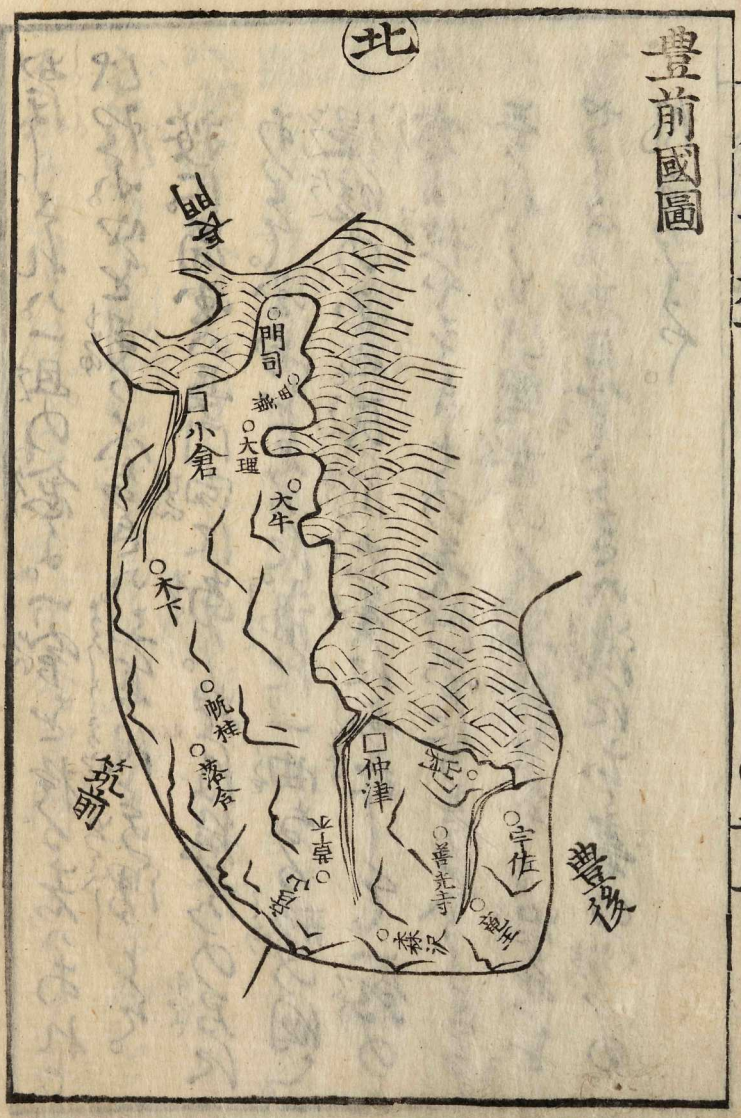


豊前

當國の風俗ハ。譬ハ馬の如し。馬に名るある。曲馬ある。色この毛ある。長さ。樹のようなるもの。色ある絵るのごとし。強ども。曲る時ハ。用かし。強ふるに比れバ。曲るのごとし。曲るに。走あり。止あり。咋あり。踏あり。其曲る。中氣なるなれハ。此國の風俗ハ。性中氣の馬のごとくして。其家宮ある。言ハ。死あり。死生を論ずる場ふ。ありても。お義を不忘るもあるべし。理を捨て。命を惜むのごとくなり。

あり。されハ一旦の念よ。一命を投る志ハ有れと。
ひとりふ心を動す人なきハ。ふ丘凡とも謂ふ。
按に。尚忠ハ長門向に尚り。世々藤芳の君に
あるを。忠尚とゝろに。洛に。一曲なる形の図。
温情の忠。民風忠義にふ死して。一郡の
念よ拝やまさるとの義。はゆにうきうへうさる。
考れとも。此図古の人。実録とす。忠死を
やるの。忠見ときハ。洛に女書の作の。
凡るるとや。

豐前國圖



豊後

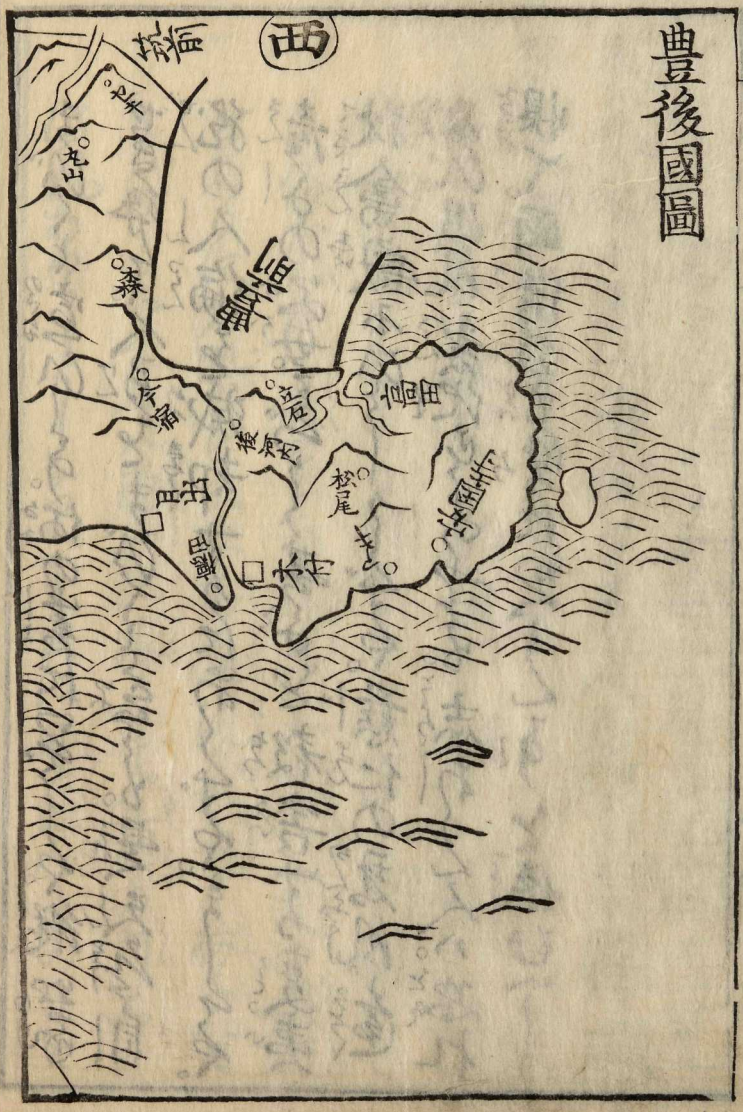
當國の風俗ハ氣を稟て所偏塞なり。為に生れ
ながら一も善に生るハ偏屋の内より出生ゆへに。
國なるゆへ。拙聖徳太子の子をまびくと宣
し。出家せしめて。子孫断絶するゆゑ。此国の人
ハ。此理を不弁して。出生するごとに。殺害すると心得た
る。今も此風ありとなん。来世にもこれを改めざ
るべし。此国の気質ゆゑ。其死を不厭ゆ。我邑の
如し。別て武士の風俗ゆゑ。適此偏を無しとぞ。

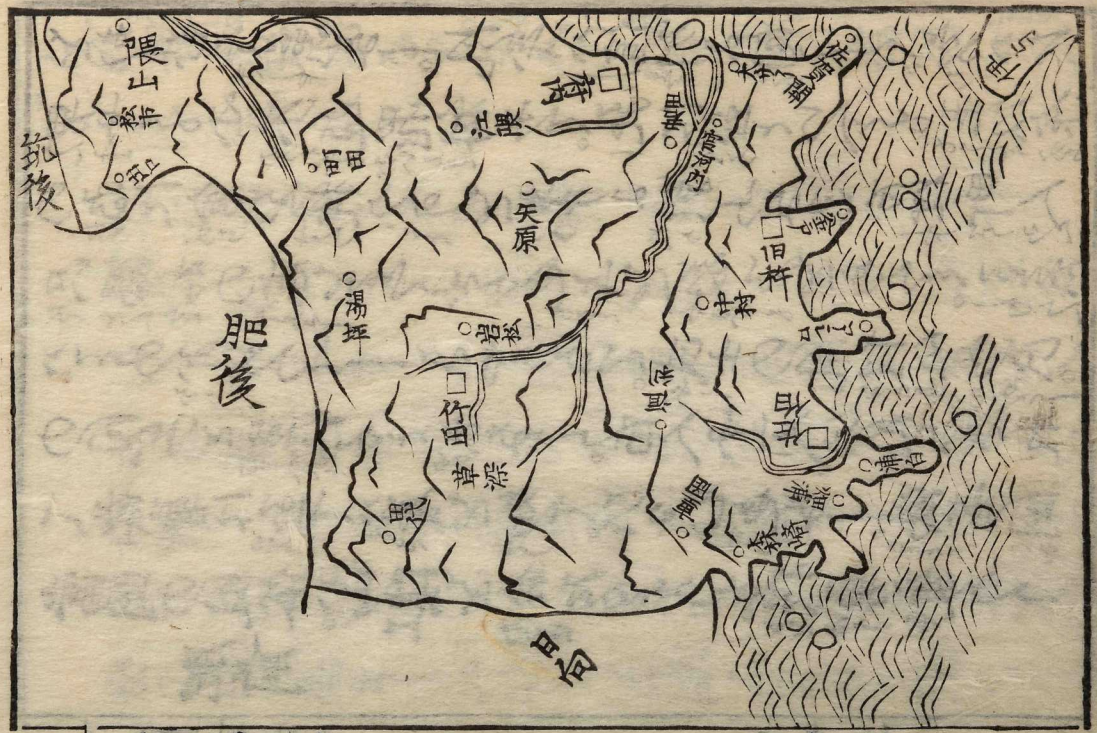
とためんと思ふ人多くて。四道不通なるを不能して。或ハ邪気多ふ迷ひ。種病をなす人多し。多ハ理国なきなり。

按ず。尚志ハ海陸も多。山谷も多き大国なり。元時氣の国なりとも。日外まどろ。山中ハ少き。民俗ハ書に説ところ詳なり。中比大友の興隆とゝなりに。大験なれに不遇。凡義多し。物ごとまびくとゝふことハ。尚志に限るべ。九州の内不びゝ風あるゝなり。なれに聖徳太子のことを

まびくと宣ひしう。佛の業にぞゝや。縱令
世を捨て。人ゐをまびくとも。是天性自
然の人倫を滅却するにあらずや。まして。
產みの子母。こづゝ其子を殺害する夷
狄禽獸ホひしうずや。慈仁の君風。遠
及び。此風教化をもつて。志ある人ハ恐れ
惧て。回伝の生産にかゝるを怪むべし

豊後國圖



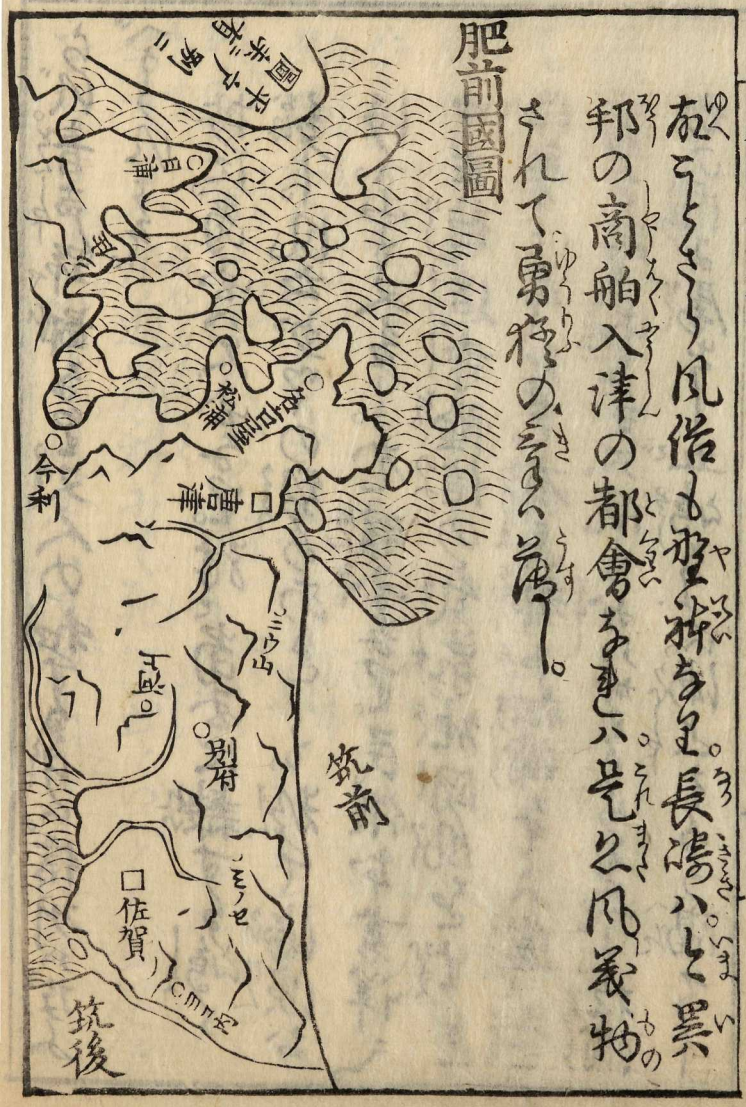

筑後
肥後
隈山
稗牟
町田
湯坪
矢原
江隈
□竹田
草深
□信杵
宇佐
□佐伯
白浦
海部
海部
海部

肥前

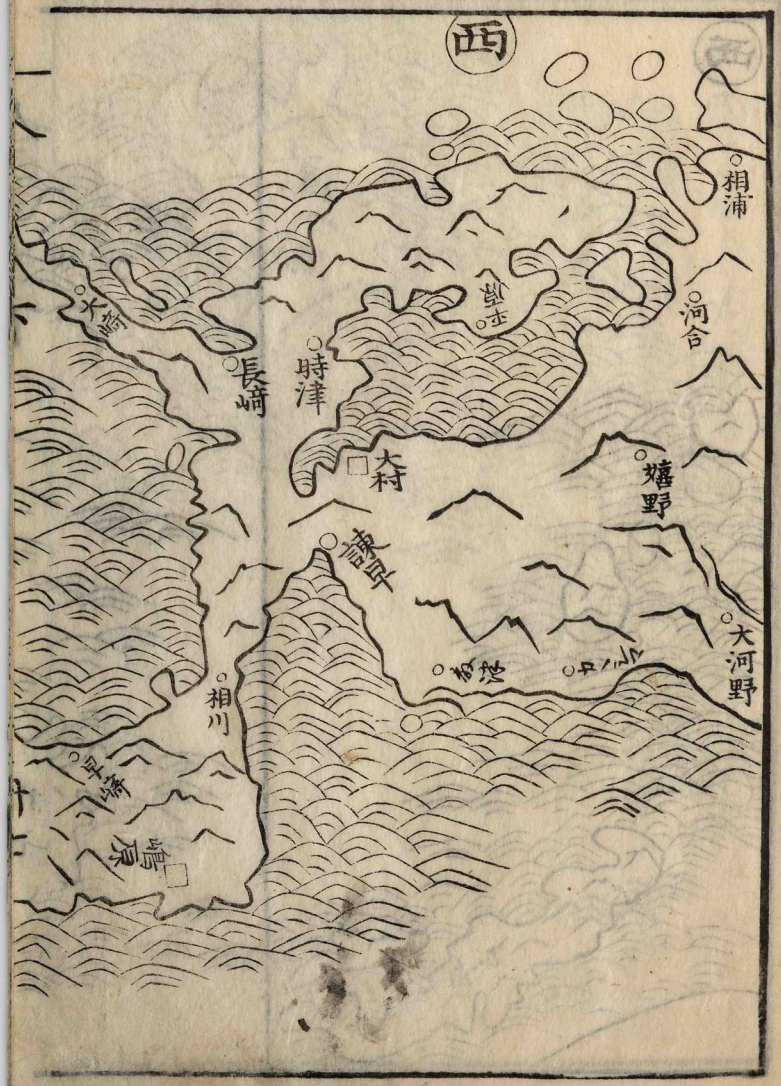
當國の風俗ハ山陰を合たるよりも。猛勇氣あり
て。武勇に至てハ義を知て。ひゑむ色なし。況其國
の風土を生ずるとゝ云なり。百人が一人。ひゑ風なきれ
ハ。そのかめつゝーさやうなり。武士の風ゆたかめ
只温和の志を生ずるもとゝ教をもとめゝ。ゆえに
のゆに命を捨ゝのゝと者ハ多ゝなり。百姓町人
男女ともに。不通罪科なて。死に至ゝとゝ。毛久命
とゝ。むゝ家業なり。風俗ハ信州と同ゝ。

らべ。音声野鄙なり。又人の和するなり。信州ハ及ビ
べからず。
按に。肖西ハ大なり。対て肖西に隷する諸
郡。風土かゝの類あまたなり。殊て海濱お
ほく。山も又多し。尤暖なり。民俗本書詳し。
中古龍造寺隆信の気象。強剛風を生ず
に。たりと尺たり。有馬郡ト松浦ハ遠ざ
ざかりたるゆゑ。風もかハりめ。べし。松浦
郡の内ゆ属せ。五島ハ海上たるゆ陽て

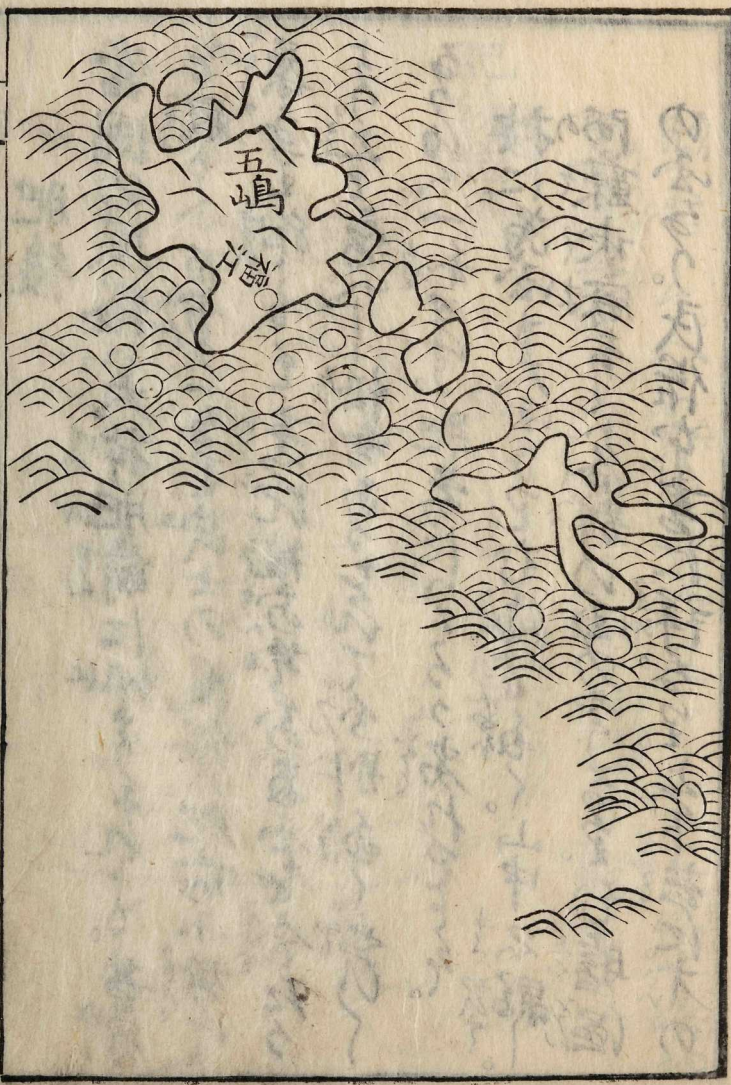
肥前国図



あらくさつ風俗も聖教なき国。長崎ハ。とく異邦の商船入津の都會なれハ。色々の風義物さたて勇猛の気ハ。


西
相浦
河合
長崎
時津
大村
嬉野
大河野
相川

西


五嶋
福江

肥後

當國の風俗ハ。大抵肥前に似たれども。甚勇を数るゝ。百分の一なり。武士の風俗ハ。肥前ゝ勢て。柔なり。然れども其実化筋の巧なる。毒虫を含たるより。上と考べし。但勇あるを以て。分別多く。ひくくなるゆゑ。一和せず。肥前にいたるゝ劣れるとなり。

按に。蒲田も大田なり。むゝ海多く。山中ハ多し。阿蘇求麻なとゝ各別の田のなるなり。むゝ臨海の田なり。民俗ハ書に詳なり。上下共に才の

ある家に入て人の義をあらそひ乱をなす。さるに依て嬉戯を聚入歎をなすの者に。座を列ねも恥をもう。

西
薩摩
日向
八代
田浦
水俣
大村
言地
熊庄
豊田
片下
小鳥
湯山

肥前嶋原
天草
薩摩

日向

當國の風俗ハ玄神玄法の変のこゝ有り。只氣の実
なるを任て已る理ところる時ハ非と云人ありとも。是を
用ひず。只主理ハ第二にして。甚信る人とハ信ず
及ひ。終よ討果すの類なる凡ものと。誠に偏界のわさ
まきなり。人倫の道理を不弁まして。彩くへき不ものを。
唯聖するを以て善とするの。是き凡僧惑るべし。
按に。當国の凡土。海濱岸く。又山中原き大なる
なり。故暖氣多し。

日向國圖

西
高原
霧島山
神谷
本庄
高城
志布
多野
清武
大崎
佐土原
宮崎
肥後
肥
志布志

大隅

當國の風俗ハ是も死をいとはず義とし。男子たる者ハ。死する道とおぼえ。五常ハ一匹ずつのものとおぼへ。佛法ハ死後のゆくさきとして。生死の為ふ至重と自覺して。常ふ主ト人の化法もあつてなく。主と云名のみを。祿を受るを主と云へ。百姓ハ地ゐとのみを。云て。不礼の行法拳て云に不見なり。戰場ふ於て。死するも。忠義の節義のみ云立事なく。戰ふ臨て。死を強すたゞとのみ云へり。泰平の時ハ。主人危殆するに。從者勝ゑ

或ハ是をのべ。或ハ雜後する新のゆゑ。ほとおほ。
未代とそ。はかるへしとそ。
按に。尚玉山と陽ゆ。海中へさしあたる玉なり。
種子島屋久の島なと云。南海の大島ひとに屬す。
尤勝玉なり。民俗本書に詳なり

大隅國圖

加賀
牛根
横山
高
大キシメ
小キシメ
鹿

自大隅佐多碕指種子海上十八里巽
指屋久海上三十里南

薩摩

當國の風俗。大隅ホ少も遠ふ事なしとそ。

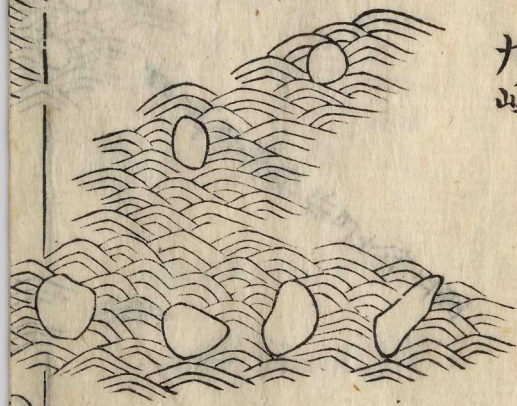
按に。當國ハ大隅の西ホに南を隔て。北ホハ保山を負。西海を受たる國にて。甑島長良島九島ホ島とい原。壱岐島南西の隷なり。琉球も南西附庸に。日時の常時なり。民俗ホ書にいること。剛強なる生質今の世にいたりまて強し。常に床の上に病死するを憾として。殺伐の場に死を逃るを自以て。本意とす。子孫もこれを

榮者とせる。修令の児子の戯語ふるてもかの
芳を恥辱とし。甚又これよ死をすくむる事のす
おほしとて。後よ死を恐れさるハ勇猛なれども。
理非を勘弁せさるを思ひ違ひなり。
凡俗。先如て形りめ考へし。

薩摩國圖

西
壱岐
甑島
防津
田布施
門田
谷利
伊集院
鹿児嶋
京泊
大隅

西
曾山
呂宋
自川湊卅二里
四十五里
人国
竹二



九嶋 自口永良三十里

西
白鬼女
琉球指已ヶ浜
吉屋

壹岐

當國の風俗ハ。遠島なれとも。牧の長奈なるゆ。大隅薩摩ちかく。海さまるゆ。人の氣象弱なるおほし。実ありとそ。

壹岐嶋圖

對馬

當國の風俗。壹岐と同風なりとぞ。

按に。壹岐對馬ハ共に肥前の国の北に當りたる海中の島なり。関西路にあり。行て山を。壹岐ハ肥州名古屋を去る。十三里。對馬ハ壹岐の勝本浦より里。四十八里。乾の方なり。皆北よりの海路。寒あり。

對馬ハ殊に寒国雪多し。是より朝鮮へ渡海航又四十八里なり。

對馬嶋圖

人國記卷之下 終

題人國記後

國家之理亂。繫風俗之美惡。風俗之美惡。繫民心之情

僞。民心之情僞。繫人牧之賢否。是故移風易俗。王者所以挽回也。嗚呼風

俗之所繫。蓋大矣哉。今此編者。往昔述本邦之風俗者也。或曰。副元

帥時賴所著也。顧爲其書。不能頗無疑焉。然非周流海內。而檢察民情者。

不能若是詳且盡矣。方今盛時。風移俗化。雖異古昔。民情所尚。猶有遺風

也。蓋民情猶植物。因土地異榮瘁。因灌溉遂其性。是故有北方强。有南方

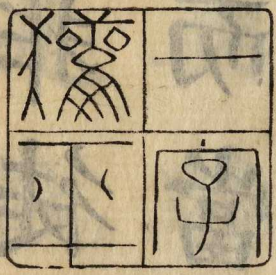
強。膏土民不才。齊土民向義。嶮岨幽谷。木直而隘。平原海濵。文辯而放。此

皆風氣水土。所以使然也。但其善惡厚薄。與時偕變化矣。以是觀此。此書

之作。非徒記往古之俗。而當以儆當世。則盍爲風化之規鑒耶。

元禄庚辰端午日

木齋平祖奥



元禄十四辛巳年二月吉辰　新刊

江戸日本橋南一町目

書林

須原茂兵衛　版行